

北海道

定数：16名

立候補者数：19名



氏名 吉田 俊教
 氏名ふりがな よしだ としのり
 都道府県士会 北海道
 年齢 48
 勤務先名称 函館整形外科クリニック

日本理学療法協会活動歴

令和6年～現在 公社) 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

平成16～19年度 一社) 北海道理学療法士会 道南支部 学術局員
 平成20～21年度 一社) 北海道理学療法士会 道南支部 社会職能局員
 平成22～30年度 公社) 北海道理学療法士会 道南支部 職能部長
 平成22～30年度 公社) 北海道理学療法士会 代議員
 平成25～26年度 公社) 北海道理学療法士会 地域包括ケアシステム推進特別委員会 道南支部担当
 令和1年～2年度 公社) 北海道理学療法士会 道南地区理事
 令和3年～現在 公社) 北海道理学療法士会 道南地区理事 道南支部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

少子高齢化社会への有効な打開策が見いだせない我が国において、理学療法士の需要は当面は維持される反面、医療・介護分野における社会保障費の膨張への対応のされ方によっては、私たちの処遇改善や職域拡大には多大な困難が生じると言わざるを得ません。これに対応するためには、協会・士会ともに、これまで以上に高いレベルで職能団体としての役割を果たしていくことが求められます。私は職能団体の力は組織率の高さに大きく影響されると考えており、昨今の入会者数の減少および退会者数の増加には大変な危機感を抱いております。組織力・率の向上のためには、会員にとって魅力ある事業がなされることや、会員の利益に繋がる取り組みがなされることが重要であり、これは協会も士会も、さらには支部においても同様と考え、これまで士会活動に取り組んでまいりました。地域住民への社会貢献を安心して行っていくためにも、本会の活動が会員の利益および組織力向上に資するものとなるよう、代議員として関わらせていただきたく存じます。



氏名 平塚 健太
氏名ふりがな ひらつか けんた
都道府県士会 北海道
年齢 38
勤務先名称 公益社団法人函館市医師会 函館市医師会看護・リハビリテーション学院

日本理学療法協会活動歴

令和6年4月～現在 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

令和7年4月～現在 北海道理学療法士会 道南支部 学術部長
令和6年4月～現在 北海道理学療法士会 職能局 職域事業部 部員
第9回道南理学療法士学術大会（令和5年）準備委員長
第11回道南理学療法士学術大会（令和7年）大会長
第77回北海道理学療法士学術大会（令和8年）準備委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

令和4年10月～現在 日本支援工理学療法学会 評議員
令和4年10月～現在 日本神経理学療法学会 評議員
令和5年4月～現在 日本支援工理学療法学会 ガイドライン作成検討コアメンバー
令和5年4月～現在 日本神経理学療法学会 北海道地方ブロック リーダー
令和6年1月～現在 日本神経理学療法学会 戦略的課題解決委員会 脳卒中歩行障害班
令和6年7月～現在 日本支援工理学療法学会 総務委員
第31回日本神経理学療法学会サテライトカンファレンス（令和6年） 集会長

立候補の趣旨

私はこれまで、学術大会や研修会の運営を通じて、地方と全国の両面で活動してきました。大会の準備や研修会の企画に携わる中で、理学療法士の学び方やキャリアに関する現場の声を伺う機会が多くありました。また、職能や総務の業務にも関わらせていただき、制度的な視点にも触れてきました。こうした活動・経験を通して、特に理学療法士としての学びを支える生涯学習制度の重要性を強く実感しています。現代社会の変化に伴い、求められる知識や役割が広がる中で、現場では多様な学習ニーズが生まれています。一方で、制度や仕組みとの間にまだ差があることも感じており、学ぶ環境をより整える必要があると考えています。以上のことから代議員として、現場の声を丁寧に拾い、理事の皆様へ提言する役割を果たしたいと考えています。理学療法士が多様な領域で活躍し続けるためには、生涯学習制度や職域拡大に関する意見交換や提言が今後さらに重要になると感じています。代議員2期目の機会をいただけた際には、これまでの経験を活かし、皆様の声を反映する架け橋として努めてまいります。何卒ご支援賜りますと幸甚に存じます。



氏名 森山 武
氏名ふりがな もりやま たけし
都道府県士会 北海道
年齢 50
勤務先名称 市立函館病院

日本理学療法協会活動歴

2017～2020年度 日本理学療法士協会 がん理学療法部門運営部員
2021年度～ 日本理学療法士協会 がんのリハビリテーション研修会 運営委員
2024年度～ 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2025年6月～ 北海道理学療法士会 会長
2021年6月～ 北海道理学療法士会 理事
2003～2021年4月 北海道理学療法士会 道南支部 役員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2022年度～現在 日本理学療法士学会連合 財務委員
2021年度～ 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会理事

立候補の趣旨

北海道理学療法士会道南支部役員として約20年間活動し、2019年からは北海道理学療法士会理事として士会運営に携わってまいりました。現在は北海道理学療法士会会長として、日々その責務を果たしております。
代議員活動と並行しながら、会長としては、平均年齢35歳という会員構成を踏まえた子育て世代への支援、そして北海道という広大な地域特性を考慮した遠方在住者でも参加しやすい研修会・講習会環境の整備など、未来志向の視点に立った協会・士会活動の提案や改革に取り組んでおります。これらの取り組みを通じ、理学療法士が活躍できる場のさらなる発展に寄与したいと考えております。
また、日本がん・リンパ浮腫理学療法学会理事としての経験や、関連学会における学術大会運営委員としての経験から、登録・認定・専門理学療法士制度を含む生涯学習システムを円滑に運営するためには、協会、都道府県士会、そして学会連合が強固に連携することが不可欠であると強く感じております。
これまでの代議員活動、士会運営、学会連合での経験を踏まえ、協会の運営および活動のさらなる発展に貢献したいとの思いから、このたび立候補いたしました。
皆様のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。



氏名 阿部 隆宏
氏名ふりがな あべ たかひろ
都道府県士会 北海道
年齢 45
勤務先名称 北海道医療大学

日本理学療法協会活動歴

2020年6月－現在 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2018年3月－2019年5月 北海道理学療法士会 代議員
2019年6月－2021年5月 理事（学術・教育局付け理事）
2021年6月－2025年5月 常任理事
2025年6月－現在 副会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021年9月－2023年8月 日本循環器理学療法学会 理事
2024年9月－現在 日本循環器理学療法学会 代議員

立候補の趣旨

私はこれまで、北海道理学療法士会において支部事業局長として支部事業の活性化に取り組むとともに、理事・常任理事・副会長として会の運営に携わってきました。また、2020年より日本理学療法士協会代議員として地域と全国をつなぐ役割を担ってきました。臨床・教育・研究・地域活動など多様な現場で理学療法を実践する中で、協会の取り組みが自分たちの仕事や将来にどう関わっているのか分かりにくいという声を多く耳にします。一方で、診療報酬や教育・研修制度、認定・専門制度、職域拡大など、私たちの実践やキャリアに直結する重要な意思決定は協会で行われています。だからこそ、現場の実感を持つ代議員が、その声を協会へ確実に届けることが重要だと考えています。各地域の活動に関わる中で、立場や経験年数を問わず、現行制度への疑問や改善への期待を伺ってきました。代議員の役割は、声を集めるだけでなく、協会の議論に反映させ、現場にとって意味のある形につなげ、その結果を分かりやすく現場へ還元することだと考えています。専門性の深化、教育、マネジメント、地域連携など、次の役割を担う現場世代にとって、選択肢を広げる制度と環境づくりは欠かせません。特定の立場に偏ることなく、現場の中心を担う世代の視点を大切にしたいと考えています。

一部の人だけの協会ではなく、多くの理学療法士が「自分たちの協会だ」と実感できる組織へ。これまでの経験を生かし、現場と全国をつなぐ代議員として尽力いたします。



氏名 柿澤 雅史
氏名ふりがな かきざわ まさふみ
都道府県士会 北海道
年齢 62
勤務先名称 日本医療大学 月寒本キャンパス

日本理学療法協会活動歴

平成19年～平成23年度 (社) 日本理学療法士協会 代議員
平成25年～平成26年度 (公社) 日本理学療法士協会 組織率向上特別委員会 委員
平成24年～令和7年度 (公社) 日本理学療法士協会 代議員
令和2年～令和3年度 (公社) 日本理学療法士協会 新組織検討委員会 委員
令和5年～現在 (公社) 日本理学療法士協会 議事運営委員会 委員

都道府県理学療法士(協)会活動歴

平成13年～平成22年度 (社) 北海道理学療法士会 理事
平成22年～現在 (公社) 北海道理学療法士会 理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私たち、理学療法士を取り巻く環境は日々変化しています。今後、明らかに供給が需要を上回る状況が予測される中、毎年、大量に養成される理学療法士が安定的に働いていける職場、職域を確保することは団体として重要な役割であります。自分たちの職業に対し、未来を描くことができないようでは、研鑽し、より高みを目指すことには至らないと思います。年々、学術大会や研修会への参加者は減少し、組織率も徐々に低下し、周囲からは、理学療法士の質の低下が指摘されています。医療、介護、さらには地域包括ケアシステムの中で、自分たちが、所属施設はもとより、広く社会から求められる存在になること、自ら学ぼうとする姿勢を常に持ち続け、それに応えられる高い質を担保することが必要です。また、診療報酬や介護報酬に裏打ちされる、給与面をはじめとした労働環境の悪化も聞かれます。これらは個人が努力し、改善していくことは困難であり、団体が取り組み、解決すべき課題であります。

難局を乗り越えて、前に進んでいくためには、日本理学療法士協会、都道府県理学療法士会が協同し、行動していかなければなりません。総会等を通じ、士会からの要望や地域の課題を伝え、全国に共通する問題に対し、共に取り組むことで、個々の理学療法士が今後も誇りを持って業務に専心していけるよう、代議員として、協会運営、意思決定において責務を果たしていきたいと思っております。



氏名 高橋 尚明
氏名ふりがな たかはし なおあき
都道府県士会 北海道
年齢 56
勤務先名称 北海道医療大学

日本理学療法協会活動歴

2010年～ 日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2013年～ 北海道理学療法士会理事
2021年～2024年：副会長、教育局長
2025年～ 北海道理学療法士会 学術局付け理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

これまで北海道理学療法士会の中では、学術ならびに教育の領域で会員の皆様の学術活動ならびに生涯学習をサポートさせて頂きました。特に教育局スタッフとしては、北海道での第1回開催から昨年度まで、臨床実習指導者（SV）講習会の実施責任者として北海道内のSV養成に関わらせて頂きました。卒前の臨床教育は、大きな変化を遂げました。しかし、卒後の臨床教育や生涯学習は卒前教育の変化に相応するようには変化できていません。その様な中で、会員の皆様がより良い形で円滑に生涯学習を進めていくためには、会員の皆様のご意見を基にしたシステムの再修正が必要だと考えております。この度、北海道士会会員の皆様の声を協会に届けるべく、協会代議員に立候補をさせて頂きました。どうぞよろしくお願い致します。



氏名 信太 雅洋

氏名ふりがな しだまさひろ

都道府県士会 北海道

年齢 63

勤務先名称 北海道千歳リハビリテーション大学

日本理学療法協会活動歴

平成17～25年 学術大会部部員
平成20年～現在 代議員
平成20年 第43回日本理学療法士協会全国学術研修大会 準備委員長
平成28年 第51回日本理学療法学術大会準備委員 副運営局長
平成21年5月～平成23年5月 ガイドライン委員会教育ガイドライン部会員
平成25年6月～平成26年5月 指定規則検討特別委員会委員
平成25年6月～平成29年5月 学会システム委員会委員
平成27年6月～平成29年5月 職能関連業務執行委員会委員
令和3年6月～令和5年6月 役員報酬等委員会委員長

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成13・14年 学術局学術誌部長
平成15・16年 学術局学術事業部長
平成17～令和5年 理事
平成19・20年 学術局長
平成21年 副会長・学術局長
平成22～24年 副会長・教育局長
平成25～27年 副会長
平成28～30年 副会長兼支部事業局長
平成31年～令和5年 副会長
令和4～5年 政策提言委員
令和5～現在 政策提言委員長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

これまで私は上記のとおり、協会・士会の役員として活動しています。
最近協会の職能活動（政策活動）が活発化しており、
士会の政策提言委員長として、士会活動にも連動して活動したいと考えています。
したがって、協会の活動を把握し意見が言える立場である代議員に立候補いたします。
何卒、お認め頂きたく宜しくお願い致します。



氏名 千葉 恒

氏名ふりがな ちばひさし

都道府県士会 北海道

年齢 54

勤務先名称 社会福祉法人北海道社会事業協会
介護老人保健施設ふらの

日本理学療法協会活動歴

令和2年～現在 日本理学療法士協会 代議員
令和7年4月～現在 日本理学療法士協会 産業保健・人間工学推進リーダー育成制度
構築検討部会部会員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成23年4月～令和3年3月 北海道理学療法士会 道北支部役員（副支部長等）
令和元年6月～7年4月 北海道理学療法士会 理事（職能局長等）

第66回北海道理学療法士学術大会（平成27年）準備委員長
第73回北海道理学療法士学術大会（令和4年）大会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

これまで14年間、北海道理学療法士会理事ならびに道北支部役員として活動して参りました。
2040年を見据えると、「地域」、「在宅」、「予防」といったキーワードが示すように、我々理学療法士を取り巻く環境は大きく変化していくと思います。そのような状況の中でも活躍できる理学療法士、そして、地域から求められる理学療法士の育成こそが、近未来において必要と考えます。
これまでの士会活動の経験をいかし、地域の現場目線で協会の更なる発展に寄与したく、立候補させて頂きました。
どうぞよろしくお願い申し上げます。



氏名 梅本 かほり
氏名ふりがな うめもと かほり
都道府県士会 北海道
年齢 47
勤務先名称 さっぽろ病院

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2005～2006年 学術局学会研修部員
2010～2013年 教育局教育部員
2013～2015年 学術・教育局付け理事
2015～2019年 社会・職能局付け理事
2019～2021年 社会・職能・健康スポーツ局付け理事
2021～2023年 健康スポーツ局長
2023～2025年 健康スポーツ局障がい者スポーツ支援部員
2025年～現在 社会局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は現在、北海道理学療法士会では社会局長として士会の運営に携わっております。また日本理学療法士協会では北海道選出の代議員として、これまで5期10年つとめてまいりました。

私自身は整形外科病院で働く理学療法士です。当院の理学療法士は20名程度で、20～30代が多く、女性が4割ほど在籍しています。そのなかで現在数名の女性スタッフが育児休暇中です。男性スタッフも育児休暇を取得しますが、女性スタッフは産前から育児期間まで休む期間が長くなることが多く、育児休暇後も時短勤務しながらの家事・育児との両立など、研鑽の機会を得にくい環境になっています。

日本理学療法士協会でも会員は若年層が多く、多くの女性会員はライフイベントとキャリアの両立という課題に直面しているといわれています。生涯学習制度の改正や研修会のオンデマンド化など環境整備をすすめる必要があると思います。また多様な働き方を選べるようなシステムも構築できると、より女性の活躍できる場も広がるのではないかと思います。将来の理学療法を担う人材を育て、各々がやりがいをもって働けるような環境になるよう、協会の活動を進めてほしいと考えています。

日本理学療法士協会の代議員のなかで女性は1割程度しかいません。女性の視点での意見も反映させて頂けるように、北海道の代議員として立候補させていただきます。



氏名 春名 弘一
氏名ふりがな はるな ひろかず
都道府県士会 北海道
年齢 48
勤務先名称 北海道科学大学

日本理学療法協会活動歴

2024年～日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2023年～北海道理学療法士会 代議員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2022年～日本支援工学理学療法学会 理事

立候補の趣旨

代議員の役割は、会員の代表として最高意思決定機関である総会に参加し、役員の選任や予算などの重要事項を会員の皆様の視点に立って審議することにあります。

理学療法士の平均年齢は約35歳と若く、キャリアパスも急速に多様化しています。このような変化の激しい時代だからこそ、本協会が会員の皆様の職能を支える組織として機能しているか、一会員としての実感を大切にしながら、客観的に確認していく役割を担いたいと考えております。

2期目を目指す今回は、これまでの経験を活かし、以下の視点を持って代議員としての職責を全うする決意です。

【1. 若手会員の視点を反映した組織運営】

会員の多数を占める若手層の現状やニーズが、協会の事業計画や予算配分に適切に反映されているかを吟味します。特に、若手の離職や休会が課題となる中、協会に所属する価値を全ての会員が実感できるような運営がなされているか、会員の皆様の視点に立って検討してまいります。

【2. 教育・学術の質を担保する意思決定の推進】

大学教員としての知見を活かし、卒前・卒後教育体制の改革や学術活動の支援策を審議します。これらの施策が理学療法士の専門性向上と社会的地位の確立に実効性のある形につながるよう、専門的見地から議論を重ねてまいります。

【3. 多様なキャリアを支える社会的要請への対応】

これからの理学療法士には、機能回復にとどまらず、全世代のウェルビーイングをデザインする役割が求められます。協会の意思決定が、会員の皆様がこうした新しい職域へ挑戦しやすく、かつ社会から正當に評価される環境づくりを後押しするものとなっているかを常に念頭に置いてまいります。



氏名 佐藤 義文
氏名ふりがな さとう よしふみ
都道府県士会 北海道
年齢 54
勤務先名称 札幌溪仁会リハビリテーション病院

日本理学療法協会活動歴

2015～2024年 日本理学療法士協会 代議員
2020～2021年 日本理学療法士協会 登録理学療法士制度委員会 副委員長
2020年～ 日本理学療法士協会 全国都道府県士会 学校保健・特別支援教育担当
2020年～ 日本理学療法士学会 認定理学療法士（内部障害）症例審査委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2008年 日本理学療法士協会北海道ブロック第59回学術大会 準備委員長
2009～2021年 北海道理学療法士会札幌支部 支部長
2009年 日本理学療法士協会北海道ブロック第60回学術大会 副大会長
2015年～2021年 第1回～第7回札幌理学療法学術大会 大会長
2023～2025年 北海道理学療法士会常任理事 健康スポーツ局長
2025年～ 北海道理学療法士会 健康スポーツ局長付理事 兼 支部事業局付理事

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

現在、北海道や札幌市障がい者スポーツ協会、札幌市スポーツ局等と「スポーツ・パラスポーツ支援」について継続協議中です。また「公認スクールトレーナーの展開」も札幌市教育委員会等と協議を開始しております。理学療法士の職域拡大や社会貢献を進めるために、日本理学療法士協会との連携・共有は不可欠と考えております。またフランスやデンマークの理学療法学生の実習受入れ等（3年間で10名以上）協会の国際事業課にも協力しています。語学だけでなく、海外の文化・理学療法のトレンドなど共有し、国内理学療法士の国際感覚の醸成にも寄与できれば、と考えております。以上、引き続き、協会と連携をとりながら、地方会員として活動を展開していきたいと考え、日本理学療法士協会代議員として、活動できればと思う次第です。皆様のご支援とご協力のほど、お願い申し上げます。



氏名 松田 涼
氏名ふりがな まつだ りょう
都道府県士会 北海道
年齢 33
勤務先名称 北海道科学大学

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2025年 - 北海道理学療法士会, 札幌支部 学術・教育部部員
2024年 - 北海道理学療法士会, 職能局 地域包括ケア推進部部員

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

33歳、3児の父、共働き世帯。おそらく最年少の候補者です。私は7歳、4歳、1歳の子どもを育てながら、臨床10年、教員2年の経験を積み、研究活動、大学院進学、士会活動を続けてきました。これが実現できたのは、理解ある家族と職場環境に恵まれたからです。しかし、こうした環境を得られず諦める仲間も見てきました。だからこそ私が声を上げなければならないと思いました。会員平均年齢は36歳。子育てと仕事の両立に悩む世代が多数を占めています。にもかかわらず、現行の制度は必ずしもこの世代に寄り添ったものになっていません。

(1) キャリア形成を「運」から「システム」へ
今年度、私は専門理学療法士試験を受験しました。会場は東京、日程の告知は1か月前。北海道から上京する準備を考えると、十分な期間とは言えません。認定・専門理学療法士の取得に^対面講習が求められる現状も、地方在住者や子育て世代には大きな障壁です。オンライン講習の拡充やオンデマンド視聴でのポイント認定など、多様な学習機会の整備について討議を求めています。キャリア形成を「運」ではなく「システム」で支える仕組みが必要だと考えます。

(2) 分野横断型の学術集会・研修機会の拡充
現在、学術活動は分科学会が中心となり、専門領域ごとの深化が進んでいます。一方、超高齢社会の患者は複数の疾患を抱えており、多領域を横断する知識と技術が求められます。分野横断型の学術集会や研修機会の拡充が、日本の健康を支える人材育成につながると思います。

(3) 現場の声を総会へ届ける
若手だからこそ見える景色があります。子育て当事者だからこそ感じる課題があります。「誰かがやってくれる」を待つのではなく、当事者である私自身が動く。この視点を総会に届け、すべての会員がキャリアを描ける協会を目指して取り組みます。



氏名 杉原 俊一
氏名ふりがな すぎはらしゅんいち
都道府県士会 北海道
年齢 56
勤務先名称 札幌秀友会病院

日本理学療法協会活動歴

平成26年～：日本理学療法士協会代議員
令和5年10月～6年：（公社）日本理学療法士協会代議員ネットワーク検討部会委員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成17年4月～：（社）北海道理学療法士会 理事
平成25年6月～：（公社）北海道理学療法士会 常任理事
平成30年7月：第69回北海道理学療法士学術大会大会長（士会創立50周年記念事業）
令和1年6月～：（公社）北海道理学療法士会 副会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私はこれまで教育・学術・組織運営に携わり会務全般に取り組んできた中で、若手・中堅・ベテランが異なる課題を抱えながらも、課題を共有することは重要と考えています。私は、その多様な声をつなぎ、理学療法の価値を未来へ確実に継承し、地域の実情に即した発展を実現するため、代議員に立候補しました。

まず第一に、キャリアデザイン支援の強化です。若手世代が直面するキャリア形成の不安に対しては、生涯学習制度の見直しに関する情報発信や、卒前・卒後教育のシームレス化の推進などを通じて、専門性を高め続けられる環境を整えます。広大な北海道では地域偏在が生じやすく、キャリアの選択肢が限られる若手も少なくありません。これまでの経験を生かし、成長の機会を広げていきます。

次に、全世代を支える理学療法の推進です。公衆衛生的視点を取り入れた地域理学療法の推進に加え、産業保健やスポーツ領域など多様な分野で活躍できる体制は重要です。北海道の広域性と人口構造を考慮し、地域の健康課題に応える仕組みを整え、働きがいと専門性の両立を支援します。

さらに、ベテラン世代が担ってきた知識・経験の継承は、組織の持続性に不可欠です。組織基盤を整え世代間のつながりを強め、経験が次世代に確実に引き継がれる環境を築きます。私は透明性と参加性の高い組織運営を推進し、若手が挑戦し、中堅が活躍し、ベテランが支える好循環が生まれる体制を皆さまとともに築きたいと考えています。どうかご支援を賜りますようお願い申し上げます。



氏名 井野 拓実

氏名ふりがな いの たくみ

都道府県士会 北海道

年齢 45

勤務先名称 北海道科学大学

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2014～2018	北海道理学療法士会	学術局 専門領域部 部員
2018～2024	北海道理学療法士会	学術局 専門領域部 部長
2018～2026	北海道理学療法士会	政策提言委員会 委員
2022～2025	北海道理学療法士会	札幌支部代議員
2025～2026	北海道理学療法士会	札幌支部副支部長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

2021～2026	日本スポーツ理学療法学会	常設委員（財務委員会委員）
2023～2026	日本運動器理学療法学会	「運動器理学療法学」査読委員
2024～2026	日本スポーツ理学療法学会	「スポーツ理学療法学」査読委員
2025	第12回日本スポーツ理学療法学会	学術大会 準備委員長

立候補の趣旨

私は理学療法士として20年以上、この仕事に邁進してまいりました。これまで、運動器疾患のリハビリテーション、高齢者の健康増進、オリンピックサポートや地域スポーツの発掘育成、大学教育や研究活動など、さまざまな機会に恵まれてきました。理学療法士人生も20年を超え、微力ながら日本の理学療法の未来に恩返ししたいと考えております。

理学療法士は素晴らしい仕事です。一方で、専門性や職域、社会制度にはなお課題もあると感じております。日本の理学療法界の方向性として願うところは以下です。

- ・ 大学院教育の充実（臨床系、研究系共に）
- ・ 生涯教育プログラムによる標準レベルの向上
- ・ 他の先進国並みの理学療法士の職域拡大
- ・ 協会認定の理学療法士の診療報酬アップ
- ・ 新たな分野への進出とその後押し
- ・ 上記を実現するための国政対応、法改正の推進

いち理学療法士として現場の声を大切に、会員の代表として責務を果たしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 小林 巧

氏名ふりがな こばやし たくみ

都道府県士会 北海道

年齢 50

勤務先名称 北海道千歳リハビリテーション大学

日本理学療法協会活動歴

平成20～23年：ガイドライン特別委員
平成26年～現在：日本理学療法士協会代議員
令和5～6年：新入会促進検討部会

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成15～16年：北海道理学療法士会学術局学会研修部員
平成17～19年：北海道理学療法士会事務局総務・財務部部長
平成20～24年：北海道理学療法士会事務局財務部部長
平成25年：北海道理学療法士会事務局総務部部長
平成25～31年：北海道理学療法士会事務・支部事業局付理事
平成31年～令和2年：北海道理学療法士会理事 支部事業局長
令和3年～現在：北海道理学療法士会理事 事務局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私はこれまで約27年間にわたり、北海道理学療法士会の活動に携わってまいりました。現在、当会では会員の皆様の多様なニーズに応えるべく、年間300を超える事業を展開しています。しかし、提供するサービスの質を維持しながら、運営側の負担をいかに軽減していくかが、持続可能な組織運営における重要な課題となっています。また、会員離れが進む現状を打破するためには、理学療法士のさらなる社会的地位の向上が欠かせません。そのためには、日本理学療法士協会と緊密に連携し、より強固な組織体制を構築することが不可欠であると考えています。これまでの経験を活かし、組織の基盤強化と会員の皆様の地位向上に貢献するため、この度、代議員選挙への立候補を決意いたしました。



氏名 箭内 一浩
 氏名ふりがな やないかずひろ
 都道府県士会 北海道
 年齢 41
 勤務先名称 北星記念病院

日本理学療法協会活動歴

令和5年～現在 日本理学療法士協会 代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

平成21年～平成25年	北海道理学療法士会道東支部	社会部部員
平成25年～平成27年	北海道理学療法士会道東支部	社会部部长
平成27年～平成31年	北海道理学療法士会道東支部	職能部部长
令和元年～令和2年	北海道理学療法士会道東地区	理事
令和2年～令和6年	北海道理学療法士会	理事
令和6年～現在	北海道理学療法士会	副会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

ありません

立候補の趣旨

現在、理学療法士を取り巻く環境は大きな転換期を迎えています。病院から地域へ、そして生活のあらゆる場面へと職域が広がる今、私たちは「選ばれる専門職」として、その価値を社会に証明していかなければなりません。「その人がその街でどう暮らし続けるか」をマネジメントする能力が求められ、2040年を見据えた地域共生社会に向けて、理学療法士にかかる期待は大きいと確信しています。

しかし現在、足元では組織率の低下という深刻な危機に直面しています。この現状を打破するためには、未来を担う世代への投資が不可欠です。私は代議員として、養成校との連携を強固にし、「学生会員制度」を強力に推進したいと考えています。

学生期から協会の活動や職能の価値に触れる機会を創出することで、プロフェッショナルとしてのアイデンティティを育み、卒業後のスムーズな入会と定着へと繋げます。日本理学療法士協会やすでに制度が開始されている県士会と情報を共有し、若手のエネルギーを組織の活力に変えていけるよう、全力で取り組んでいく所存です。

会員の皆様へ貢献できるよう、精一杯頑張ります。皆さま方のご支援を賜りますようお願い申し上げます。



氏名 齊藤 浩平
氏名ふりがな さいとう こうへい
都道府県士会 北海道
年齢 46
勤務先名称 森山メモリアル病院指定訪問リハビリテーション事業所 東出張所

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2014年～2020年 (公社) 北海道理学療法士会 代議員
2015年 第66回北海道理学療法士学術大会 財務部長
2015年～2020年 (公社) 北海道理学療法士会 道北支部副支部長
2019年 第3回道北理学療法士学術大会 準備委員長
2021年～ (公社) 北海道理学療法士会 理事兼道北支部長
2021年 第29回全道学術研修大会 大会長
2022年 第73回北海道理学療法士学術大会 準備委員長
2024年 第7回道北理学療法士学術大会 大会長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

日本理学療法士協会代議員に立候補いたしました、齊藤浩平と申します。
これまで北海道理学療法士会の理事として、道北管内における多くの事業に携わってまいりました。その活動を通じて強く感じているのが、会員の職能活動に対する考え方の「二極化」が進んでいるという現状です。
理学療法士を取り巻く環境が大きく変化中、日々の自己研鑽が必ずしも正当な評価や実感につながりにくい状況は、非常に大きな課題であると同時に、この「二極化」を加速させる要因の一つであると考えています。
今後は、これまで以上に協会と士会が連携を強化し、会員一人ひとりの努力が、やりがいや社会的意義の実感へとつながる環境を整えていくことが必要です。
私は代議員として、若手が将来に希望を持てる、魅力ある組織づくりに貢献していきたいと考えています。



氏名 鈴木 智博
氏名ふりがな すずきともひろ
都道府県士会 北海道
年齢 46
勤務先名称 医療法人翔陽会介護サービスセンターこうよう

日本理学療法協会活動歴

都道府県理学療法士（協）会活動歴

- 2013年 公益社団法人北海道理学療法士会 空知支部北地区幹事
2017年 第26回北海道理学療法士会全道学術研修大会 準備委員長
2017年 公益社団法人北海道理学療法士会 空知支部長
2021年 公益社団法人北海道理学療法士会 理事（空知）

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私はこれまで北海道理学療法士会空知支部の支部長として9年間、士会活動に携わってまいりました。主に支部内のネットワークを整備し、協会や士会の活動を会員へ周知することに尽力しております。今後、さらに協会活動への理解を深め、多くの会員へ情報を共有すべく代議員に立候補いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。



氏名 仲澤 一也
氏名ふりがな なかざわ かずや
都道府県士会 北海道
年齢 45
勤務先名称 D o - C l i n i c 整形・運動
器リハビリテーション

日本理学療法協会活動歴

2023年～ 日本理学療法士協会代議員

都道府県理学療法士（協）会活動歴

2014年～ 社会局スポーツ支援部長
2019年～ 健康スポーツ局生涯スポーツ支援部長
2023年～ 健康スポーツ局付け理事
2025年～ 健康スポーツ局長

学会連合及び同連合会員団体活動歴

立候補の趣旨

私は、理学療法士がスポーツや学校保健の現場において、より確かな社会的地位と職域を確立することを目指し、本協会の代議員に立候補いたします。
特に、協会が重要施策として掲げる「認定スクールトレーナー制度」等の学校保健事業に着目しています。これらの活動が、単なる啓発活動やボランティアに留まることなく、国や自治体の予算措置を伴う「正当な対価を得られる業務」として制度化されるよう、現場の視点から提言を行ってまいります。
加えて、新生涯学習制度の運用や組織率の低下といった課題に対しても、会員の皆様が会費に見合うメリットを実感できているかという視点を大切にします。政治活動を含む対外的な取り組みが、処遇改善などの具体的な成果に結びつくよう、建設的な議論を推進します。現場で活動する会員の声を国レベルの施策へ反映させ、理学療法士が社会で正当に評価される未来を創るため、尽力する所存です。